

講義科目 : 建築環境学	単位数 : 2
担 当 : 寺島 貴根	学習形態 : 選択科目 建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

都市や建築において、快適な居住空間を実現するための計画法の概要を修得することが本講義の目的である。室内空間および都市空間における音・光・熱・空気および水分の制御に関する基礎理論とその建築・都市設計への応用の概要を学習する。教科書の内容に従い、スライドを併用して講義が進められる。室内環境の初歩的な設計課題に対する解決方法を身につけることを到達目標とする。

授業計画

第1回	講義ガイダンス
第2回	騒音防止と音響設計①（音の物理、聴覚）
第3回	騒音防止と音響設計②（騒音制御、サウンドスケープ）
第4回	騒音防止と音響設計③（音響設計、吸音）
第5回	日照と日射（太陽と地球、日影曲線）
第6回	採光と照明①（視覚、昼光率）
第7回	採光と照明②（光束法、光源）
第8回	色彩
第9回	室内空気汚染と換気①（室内空気環境基準、シックハウス）
第10回	室内空気汚染と換気②（自然換気と機械換気）
第11回	室内空気汚染と換気③（換気量の計算）
第12回	断熱と結露防止①（伝熱の基礎、熱の物性）
第13回	断熱と結露防止②（貫流熱の計算、断熱）
第14回	断熱と結露防止③（露点温度、結露防止）
第15回	体感温度
定期試験期間	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

（教科書）基礎力が身につく建築環境工学（三浦昌生著、森北出版、ISBN978-4-627-58112-8）

（テキスト）なし

（参考書）なし

成績評価方法

成績評価は試験を含む全講義回数16回のうち11回以上出席した受講者に対して行う。授業毎に提出する出席票（数行の感想文を含む）と二回の筆記試験によって、各受講者の理解度を判断し成績評価を行う。評価におけるそれぞれのウェイトは、出席票が40%、筆記試験が60%である。

その他

上記に示す教科書を購入して受講すること。室内環境の物理と心理に関する理論および計算が含まれる理系の内容であるが、今後建築に携わっていく者には必須の知識や考え方である。将来建築士試験を受験する予定の者には受講を勧める。